



健康投資とは

社員が病気になり
欠勤すると...



社員が寝込んでいるあいだ、
業務が滞ったり、
引継ぎがうまくいかずに
苦労したりします。

それは
そうですね。

出社していても
社員がなんとなく眠かったり
気分が悪かったりだと...



あまりいい仕事を
してくれそうにありません。

それも
分かります。

社員が健康で
頭もすっきりした状態で
元気に出社してくれると...



きっといい仕事を
してくれるでしょう。

そうだと
思います。

だから会社も、
社員が健康でいられるように
積極的に
働きかけをしたほうが
よいのです。



たしかに
そんな
気がします。

でも、社員の健康なんて、
自己責任じゃないの？

たしかに自己責任ではありますが...。
でも、会社は社員の健康も
心配したほうがいい。

だって、社員が健康なほうが、
仕事してくれるしね。

社員が健康だと、会社もトクする気がする。
もちろん、本人もハッピーです。

いまは業績が良くても
社員がこんなだったら...



将来の業績は
こうなりかねません。



いまは業績がまだまだでも
社員がこんなだったら...



将来の業績は
こうなりそうです。



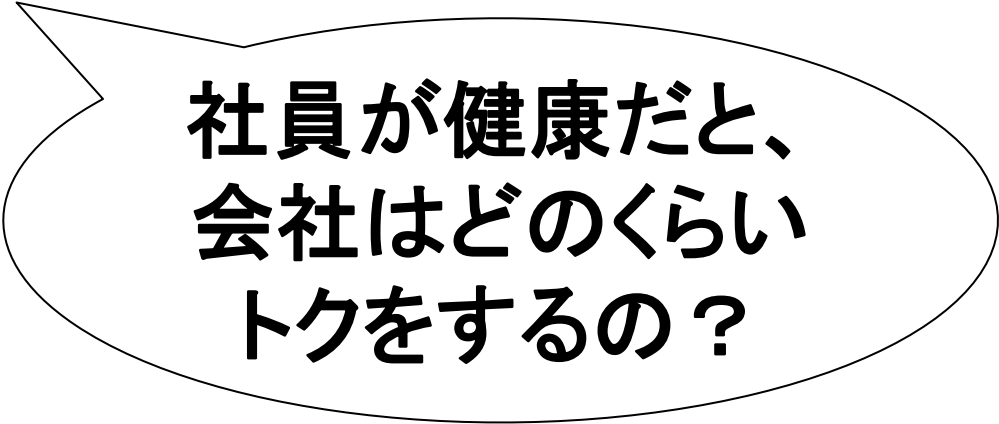
つまり、社員の健康状態は
会社にとって
「見えない資産」
であり、
その価値は
大きくプラスだったり
マイナスだったり
するのです。



もしも、将来
この「見えない資産」の価値が
数値化され、
企業の会計資料に
記載されるようになったら....
(健康会計といいます)

企業の株価は
大きく変わることでしょう。





社員が健康だと、
会社はどのくらい
トクをするの？

会社が社員の健康のために
お金を使うとしたら、
その結果はどうなるのか...。

考えてみましょう。

たとえば、
社内にスポーツジムや
仮眠室を置いたとしたら...



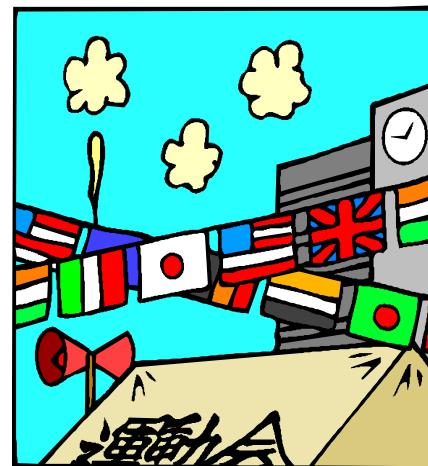
設備をそろえたり
インストラクターを採用したりと
お金がかかりますね。

たとえば、
社員食堂のメニューを
ヘルシー化したら...



メニューを考えなおしたり
シェフをヘッドハントしたり
食材の供給ルートを変えたり
お金がかかります。

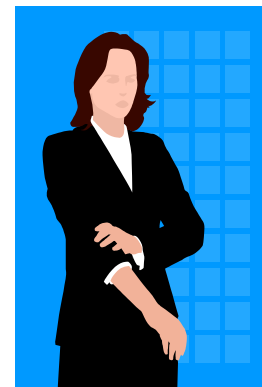
たとえば、
健康になるための
食育イベントや
食育セミナーを
開いたりしたら...



イベントやセミナーの開催には
そもそもお金がかかりますね。

さらに、こうした
「社員に健康になってもらうための
プランを作る部署」
が必要になりますし、
担当者も確保しなければなりません。

そうした社員の人件費もかかります。



こうした出費を、

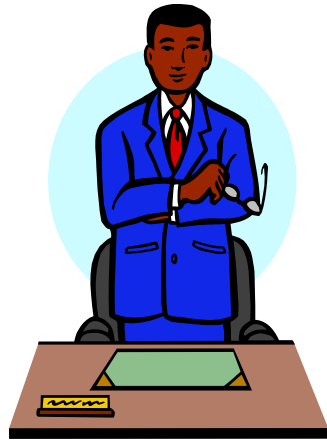
「健康投資」

とといいます。

健康投資をしたら、
会社はトクをする？

はい。

じつは儲かることが
分かっています。



会社

社員の健康に対して
会社がお金を使う
(健康投資)



すると、
生産性がアップします



社員

生産性アップ、という形で
会社は儲かるのです。

「生産性が上がる」とは、

「業務の効率が上がること」

「仕事のスピードが上がること」

だけではなく、

「創造性豊かな仕事ができるようになる」

ということも「生産性が上がる」ことに該当します。

いずれにしても、社員にとっても会社にとっても
良いことですね。

生産性はどれだけ
上がるのですか？

「適切なやり方」をすれば

使ったお金の

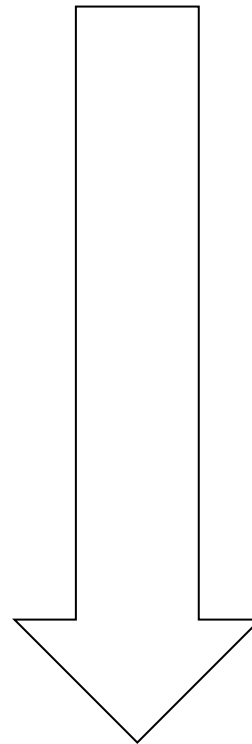
4～5倍、上がります。

(米国での研究)

アメリカで30年もかけて研究されてきました。

社員の健康のためにお金を使ったら、
ホントに生産性が上がるのか？
どれだけ上がるのか？

多くの企業が
健康投資の
効果測定を行った。



1980年代

1990年代

2000年代

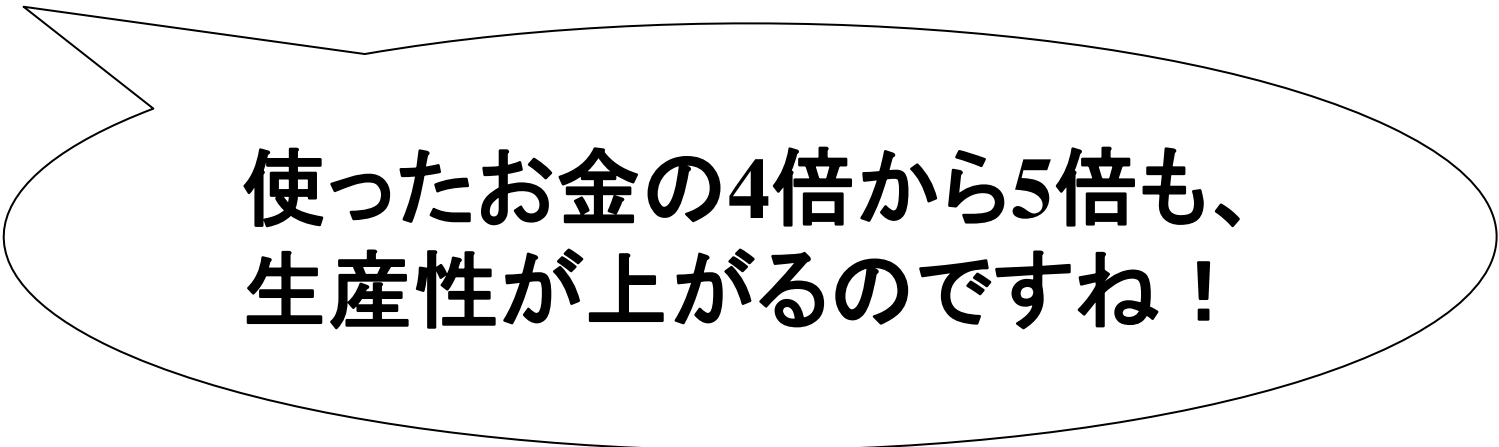
現在も

その結果、上がることが分かったのです。

生産性が上がる理由

- 不意の欠勤(病欠)が減る ← 機会損失が減る
- 体調不良のだらだら仕事が減る
- 仕事がクリエイティブになる
- 「健康投資をする企業だ」ということが会社の評判にもなり、優秀な社員を採用しやすくなる





**使ったお金の4倍から5倍も、
生産性が上がるのですね！**

そうです。
これを「投資」として考えると...
4倍から5倍の価値のある投資
ということです。

まとめ

良い会社になり、生産性を高めるために
社員の健康に会社がお金を使うことを
「健康投資」といいます。



なお、健康投資を行いながら
会社を経営することを

「健康経営」

といます。